

# 久しぶりに西播磨 古代からの製鉄の地「宍粟市千種」を訪ねる 2013.7.19.

## 千種天児屋たら跡・岩鍋古代製鉄発祥の地碑を訪ねる



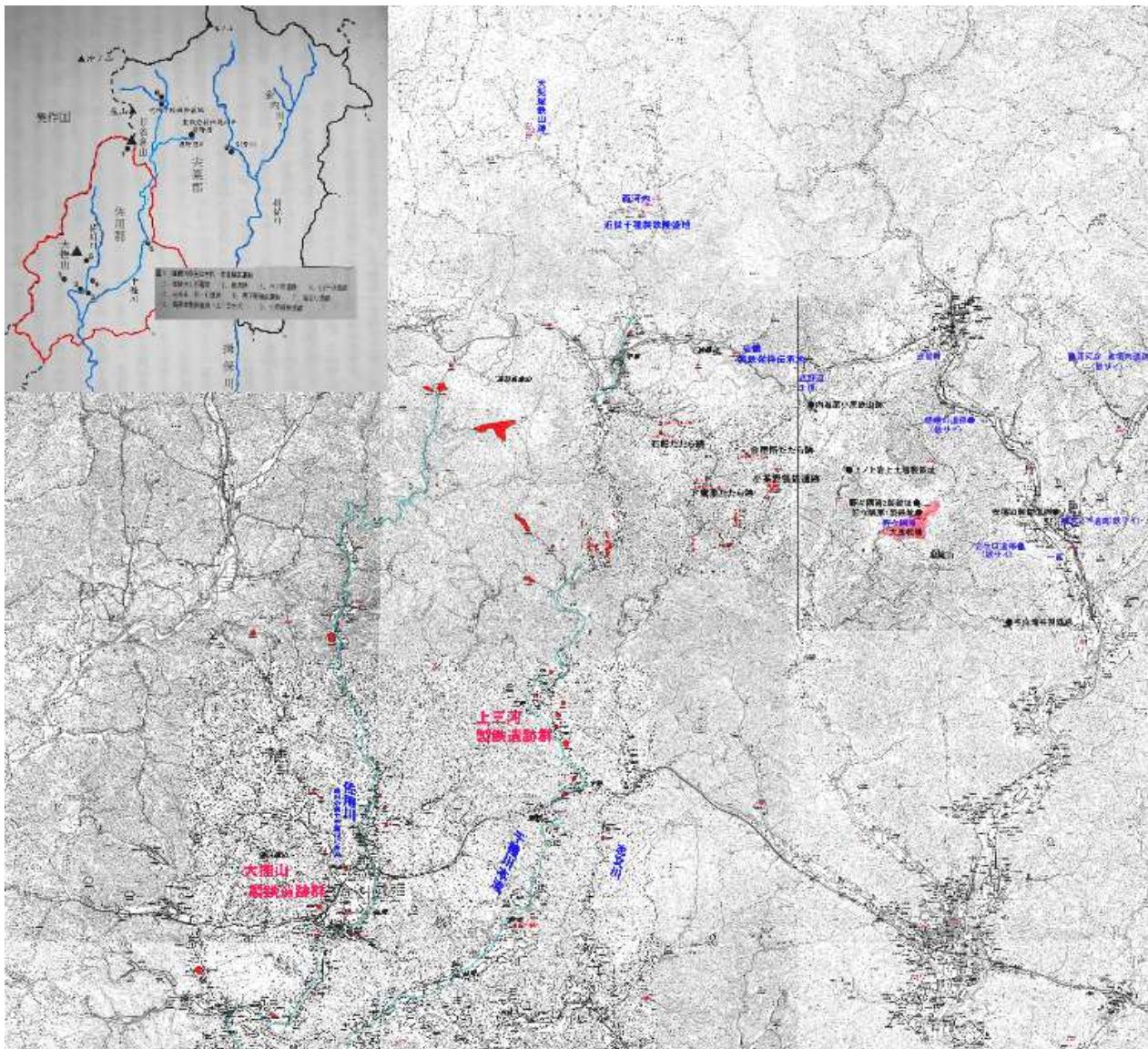
西播磨中国山地の山奥 佐用・宍粟は古代からの製鉄地帯。宍粟鉄・千種鉄の名は刀剣の材料として有名で、千種岩鍋には製鉄神「金屋子神」が降臨し、日本で始めて製鉄技術を伝えたとの伝承も残っている。周辺のたら跡を幾度も訪ねたことがある。また、カタクリやひまわりが咲く佐用には毎年訪れるのですが、その奥千種にはちょっと遠くてご無沙汰。

久しぶりに朝早くて、佐用のひまわりを見た後、千種に足を伸ばしました。千種のたら跡として整備されている「天児屋鉄山跡」を見て、千種から東へ 岩鍋の古代製鉄発祥地の碑のところから、新たに開通したトンネルを抜けて、波賀町へ山越をして、揖保川沿いを一宮町安積山から山崎へ原チャリを走らせて帰ってきました。

1. 江戸時代初期から明治まで操業の千種 西河内 天児屋鉄山跡再訪 学習館併設のたら跡公園
2. 今ユリの花満開のちぐさ高原の「ユリ園」に立ち寄る
3. 千種川水系家千種から東の揖保川水系へ 山越ルート国道429号線 宍粟の製鉄地帯の中心部  
岩鍋の古代製鉄発祥の地碑を見て 波賀・一宮町から山崎へ



久しぶりの千種 よく整備され維持されている天児屋たら跡のすぐ近くには山腹に満開のユリの花が咲き乱れるユリ園ができ、また、製鉄発祥の地 岩鍋には峠を越えるトンネルができていて、難なく千種川水系から揖保川水系へ越えられました。ちょっと行かなかった間に随分変わったと……。でも 製鉄遺跡がよく整備され、維持されているのはうれしいかぎり。  
久しぶりの千種天児屋たら跡をレポートしました。



西播磨 佐用・千種の主要製鉄遺跡分布 [兵庫県考古博物館西播磨遺跡 リスト & 分布図より整理](#)



### 製鉄神 金屋子神と千種 古代製鉄発祥の地伝承

播磨国宍相(粟)郡の

山間の村岩鍋に天から神が示現。「わたしは金山彦。天目一箇神ともいう金屋子神である」と明かす。



村人にタタラによって鉄を作ることを教え、様々な道具を作る技

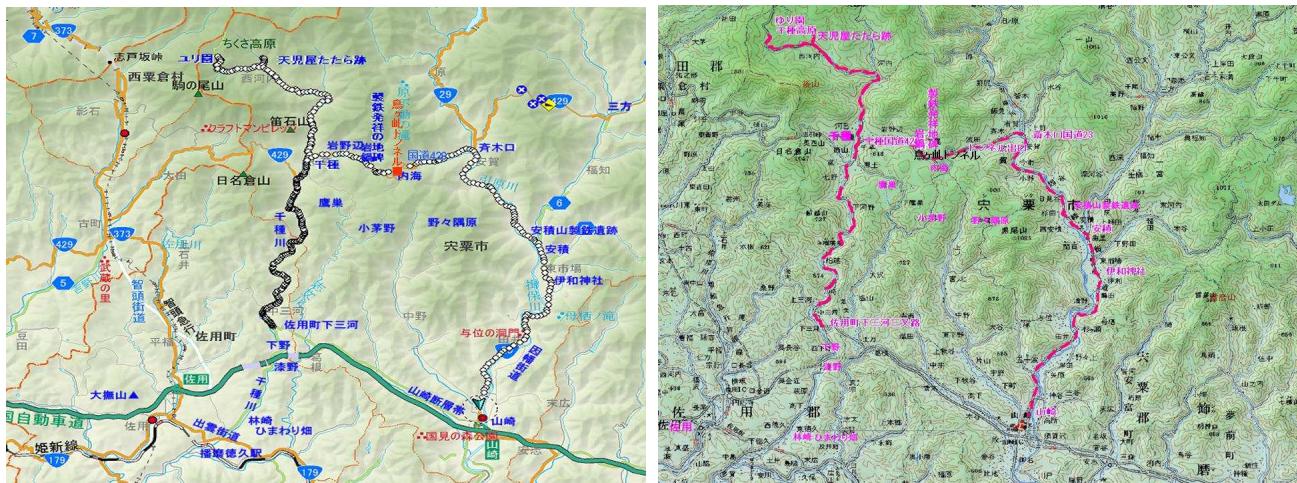
術を人々に授けた。そして、「これから西の方へ行き、鉄を吹き道具を作ることをさらに多くの人々に教えねばならない」と、白鷺に乗って天空高く飛び立った。その後、金屋子神は出雲国に飛来し、能義郡比田の森に降り立ったと言う。

## 近世(江戸時代初期から明治まで操業)の製鉄隆盛地 千種の鉄山跡

### 1. 千種 西河内天児屋鉄山跡再訪 學習館併設のたたら公園



天児屋たたら公園 左手道を挟んで向こうに学習館 右側山裾に天児屋鉄山跡が良く整備されて保存 2013.7.19.



佐用林崎のひまわり畑で昼食を済ませて、午後1時過ぎに千種川に沿って、もと来た道を下三河の三叉路まで戻って、山崎の方へ曲がらず、そのまま北へ千種川を千種へ遡る。 今日の予定は千種西河内の天児屋鉄山跡まで行って、帰りは千種から東へ国道429号線の山道を山越えして揖保川沿いの波賀町へで、今度は国道29号線揖保川沿いを一宮町の安積・伊和から山崎へ出る。古代製鉄発祥の地伝承のある岩野辺を訪ねて山越する道である。

幾つものたたら集落が点在する山中を越えてゆく険しい国道429号線岩野辺周辺。

久しぶりの千種 天児屋鉄山跡は良く管理されて残っているだろうか????

トンネルができると聞く国道429号線、どうなっているだろうか???

千種川はいま 鮎釣りのシーズン。

山又山緑一色の中を流れ下ってくる川中に幾人もの釣り人が見え、その奥に千種の山々が顔をのぞかせている。

期待一杯で 山間のよく整備された県道を千種川に沿って原チャリを走らす。



千種から南の 上三河・下野へ流れ下る千種川 気持ちよい川沿いを遡る 2013.7.19.

千種川に沿って山沿いを遡るとまもなく瑠璃寺への入口を通過し、まもなく道の駅「千種」を通過。さらに谷間を遡ると川の奥正面にバランスの良い見覚えのある千種の山 宍粟富士の名がある笛石山が顔をのぞかせ、まもなく両岸に千種の街の家並みが見えてくる。千種の家並みの南端 室橋の東詰で西の岡山側と千種から東へ岩野辺から波賀町そして福知山へと山間を結ぶ国道429号にぶち当たる。何度も通った道なので不安はないが、神戸から 150KM 近くの距離。日暮れまでには神戸に帰り尽きたいので、時間配分野で考えながらのツーリング



宍粟富士の名がある笛石山が千種川の奥に見えてくるともう千種は近い 2013.7.19.

千種の家並みの南端 室橋の東詰の十字路に到着。この十字路を西へ室橋を渡って行くと県境日名倉山を越えて東粟倉村から智頭街道へ出る。また、東へ行くと道はすぐ北にカーブして千種の街の旧千草町役場やかつての民俗資料館が並ぶ千種の中心部を少し走って「千草」の交差点で東に折れ、岩野辺へと続く。この十字路をそのまま渡ってまっすぐ川沿いを走っても 街の中心を抜けて千種川の奥へ行けるのですが、道が狭いので、右へ折れ、国道を「千草」の交差点まで行き、千種の交差点をそのまま北へ突ききって、千種川奥へ 三室高原・ちぐさ高原への道をたどる。久しぶりの道ですが、何度も來たことがあるので気楽なもの。

かつては この千種の街中は道が細かったのですが、今は区画整理され、広い国道になって、らくちんで千種の街中を抜けてゆく。



千種の街の南端 国道429号線とのクロス 千種川室橋東詰 「千草」の交差点 国道はここを右折れして岩野辺へこの「千草」の交差点を渡ると千種の街中から外れ、また、千草川に沿って山間を奥へ遡る。ここまで来るとちょっと気温が低くなったような気がしましたが、川沿いのあちこちで 紫陽花が鮮やかな色で咲いていて、やっぱりここは高地の山間。少し季節が遅れているのだと。

山間を少し走るとまもなく、千種川の本流は西へ90度曲がる角 出会い橋に出る。

このあたりは江戸時代から明治にかけて、高保木製鉄遺跡や天児屋製鉄遺跡など数多くのたたら/鉄山があった千種たら製鉄の中心地で この出会い橋の北奥の東河内 そして 千種川本流が流れる西河内にも点々と集落がある。

そのまま千種川の分流三室川に沿って北へ行くと三室高原への道。天児屋たら公園へは左に折れ、西河内をさらに千種川をさかのぼって行く。

まっすぐに伸びた杉林を背景に 透明な水が陽光を受けてきらきら輝き、川岸には紫陽花。来るたびにうれしい気持ちの良い千種の光景。

かつては このあたりの川の砂州に砂鉄が体積しているのを見つけたのですが、川の流れが改修されて、覗き込んでもどこにも砂鉄を見つけることができませんでした。



千種川が東への流れから南へ流れを大きく変える出会い橋



河内 出会い橋から 左: 南から西へ 千種川本流



河内 出会い橋より 北側 三室川



出会い橋の西側 ちぐさ高原方面西河内へ さらに千種川を遡る 2013.7.19.



千種川に沿って ほつぽつと家並みが点在する西河内の坂道を登ってゆくと、西河内の「ちぐさ高原」の大きな案内板のある Y 分岐左へ行くと本流が流れる鍋ヶ谷から千種高原へ。右へ行くと支流天児屋川沿いの枝谷に入り、少し登ったところ杉林の中に、天児屋鉄山跡と学習館の建物が見えてきました。

道の左側 天児屋学習館の崖下に天児屋川 道の右側の杉木立の山裾に天児屋鉄山の諸施設跡が石垣に囲まれて、並んでいます。千種の街から 30 分弱下三河の三叉路から約 1 時間弱で天児屋鉄山跡の天児屋たら公園に到着です。



天児屋鉄山跡(道の右側)と天児屋学習館(道の右側)が杉木立の中に埋まっている天児屋たたら公園

## 【参考】

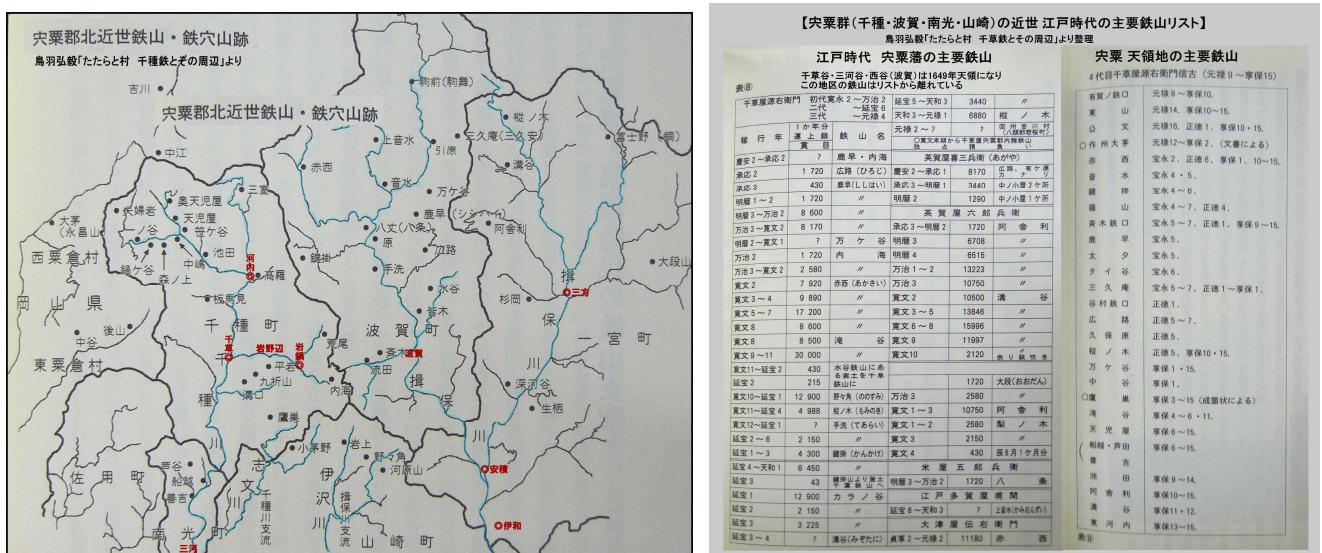
先に兵庫県考古博物館資料「西播磨遺跡 リスト & 分布図」より西播磨の製鉄遺跡を選択整理して、「西播磨 佐用・千種の主要製鉄遺跡分布」を掲載しましたが、時代別に区分できていません。

今回訪れた天児屋鉄山跡にある天児屋学習館で鳥羽弘毅氏著「たたらと村 千草鉄とその周辺」に 千種や宍粟郡のたらが栄えた近世の千種・宍粟のたら跡や鉄穴跡の分布を記載されていた宍粟郡の近世の鉄山や鉄穴の分布リストを抜き出し、参考図として下記に記録しました。

大まかには西播磨の製鉄地帯の古代の中心は大撫山製鉄遺跡群を中心とした佐用。

そして、近世になると製鉄の中心は宍粟郡に移り、千種がその中心になります。

そして 千草鉄・宍粟鉄が刀剣素材として全国に広がって行きます。



## ● 天児屋たら公園 天児屋鉄山跡と天児屋学習館

天児屋たら公園前に原チャリを止めるが、人影は見えず、静かなもの。 学習館の扉は閉まつていて、今日は休館かと。 向かいのたら跡で草抜きをしている女人が、 気がついてこちらへ。 この方が学習館の管理を預かる方で、「今日はあなたが一人目。 向かいの鉄山跡一面にクリンソウが咲く 6 月は多くのでにぎわうが、ほかの季節は……」と。 でも この天児屋たら公園ができる もう随分経っているが、石垣で区分分けされた鉄山跡は 本当によく整備されていて、美しい。「この公園が整備される前は荒れ果て、草ぼうぼうで 破れた看板がたつていただけ。それを知っているので、時間が経って、もう管理ができずに 元に戻ってあればてているのでは……」と心配してましたが、本当にびっくり。

「こんなに良く整備されていて ありがとう」とうれしくなる。学習館を開けてもらって、中を見学した後、向かいの天児屋鉄山の諸施設を見学。 今日はゆっくりなので、天児屋鉄山の諸施設を案内板に書かれた配置図と照らし合わせながら、鉄山山内を歩く。



上流側 高殿側から天児屋たら跡全景 2013. 7. 19.



勘定場前より下流側  
千種 天児屋鉄山 全景



下流側 山ノ神の手前 学習館前より  
2013. 7. 19.

[天児屋鉄山全景 \(1\) 天児屋鉄山跡の上流側へ道を登ったところから見下ろす](#)



天児屋鉄山下流側上部から眺めた天児屋鉄山 2013.7.19.  
写真左手:多々良の里学習館 中央:木々に囲まれて山の神 奥:高殿



天児屋鉄山全景（2）天児屋鉄山跡の下流側の端山腹を登って 鉄山全体を見下ろす

## 兵庫県指定史跡 天児屋鉄山跡

てんごや  
天児屋鉄山跡

【指定年月日】 平成十四年四月九日

所在地 穴粟市千種町西河内字新口 しそうしょくさとうようにしきうち しんぐち

【概要】 城跡を思わせる整然と積まれた石垣が残る天児屋鉄山は、高殿（たたら）、勘定場（事務所）、砂鉄・炭小屋（材料庫）、山内小屋（社宅）など複数の建物群で構成されていた大規模な製鉄施設の跡である。

天児屋鉄山の主な操業期間は、江戸時代前期から明治十八年（一八八五）までの二百五十年余りと推定されるが、発掘調査の結果から、製鉄遺跡としての歴史はさらに中世まで遡るとも考えられている。千種で産出される鉄は、その品質の高さから「千種鉄」の名で珍重され、特に中世、備前長船（現・岡山県瀬戸内市）の刀匠達は、それを原料に多くの名刀を作り出した。

江戸時代に入ると、千種は徳川幕府の直轄地（天領）となり、天児屋鉄山は幕府から認可を受けた千草屋や鳩屋などの豪商「鐵山師」によって請負運営された。この頃には、刀以外にも生活用具の製造に必要な鉄の需要が増加し、山崎まで就航していた揖保川の高瀬船などを使って下流の姫路、さらに大坂方面へと出荷されるようになった。

江戸時代後期に盛時を迎えた天

児屋鉄山には、数十戸から百戸、数百人を越える従業者が居住していたと推測されるが、近代に入ると鉄価格の下落によって運営が困難となり、明治十八年ついに閉山された。

参考文献 畠田弘毅

「たたらと村」ほか

案内板にある天児屋鉄山跡の配置図は主要諸施設が描かれているだけで、私の鉄山の諸施設配置イメージからすると石垣で区分された場所の数とあわず、また、記載された鉄山施設の中に 炭素の多い銑鉄であるケラから、再加熱鍛造して炭素を抜いて 鋼素材を作る鍛冶場（左下場）が見当たらない。何度も案内板に行って確かめたりでちょっと戸惑う。

一般的な鉄山の諸施設を見ると一番上流側にたらぬのある高殿→その下に金池とケラ・・を分割する大・小ドウ場。小割りした・（銑鉄）をそのまま出荷する場合もあるが、さらに再加熱脱炭して鋼にする大鍛冶場（左下場・本場）・小鍛冶場がある。これらの鉄生産諸施設を通って作られた鉄素材は事務所である元小屋・勘定場を通って、鉄山を出てゆく。また、鉄山の一角に金屋子神を祭る山ノ神がある。

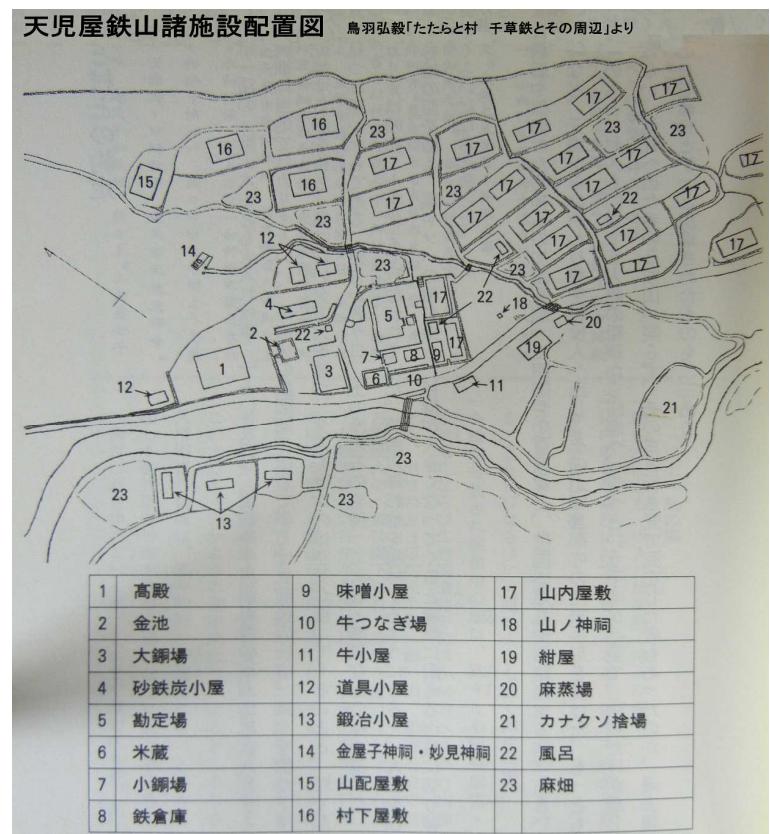
上流側から下流側へのこの流れに沿って鉄山の諸施設あるはずなのですが、案内図ではこの鉄素材を作る諸施設のつながりがよくわからぬ。  
ケラ（銑鉄）を小割りした小ドウ場や銑鉄のケラから鋼素材にする中心施設 大・小鍛冶場が良くわからない。

学習館で購入した「たらぬと村 千草鉄とその周辺」に書かれていた天児屋鉄山諸施設配置詳細図と照らし合させてやっと理解で来ました。

大ドウ場から道を挟んで反対側にある鍛冶小屋が、大・小鍛冶場のようだ。 また、小ドウ場は勘定場横の倉庫と記されているところにあると記載されている。

また、学習館の前に幾つもの石垣に区切られた区画は山内で働く人たちの住居区画のようだ。

案内板のちょうど向こう正面にある斜面を流れ下ってくる小さな溝・小川で 千種川の上流側鉄山の生産施設と事務所 下流側が住居区画に区分され、中央部の小川のすぐ横の林に山ノ神が祭られている。



生産諸施設が配置されている上流側



生産諸施設と居住区を区する小川



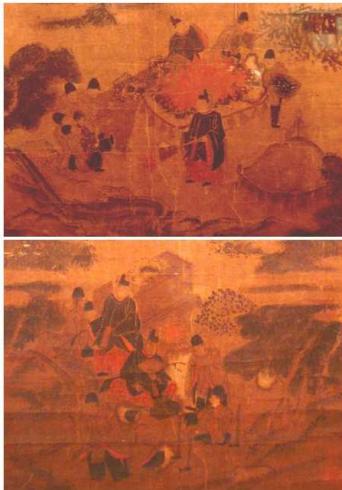
居住区の石垣区分が並ぶ下流側 2013.7.19.



道路沿いの金屋子鉄山中央部 金屋子神を祭る金屋子鉄山の山の神 2013.7.19.



## 【天児屋たらに跡学習館 展示より】 2013.7.19.



たらら製鉄の様子を描いた絵図 たらら学習館で 2013.7.19.

玉鋼からの日本刀作業工程 と たらら製鉄の作業 炉から最初に流れ出した初花

「6月半ば この遺跡内はピンクのクリンソウが咲き乱れ、多くの人が花を見にこの遺跡を訪れてくれたのですが、今日はあなた一人だけ。クリンソウの花の季節以外は静かなもの」と遺跡内の草取りなど整備をし、学習館の留守を預かる地元のおばあさんが言う。かつてまだ整備される前の遺跡や千種でもらった資料として変貌する千種の様子などを話題にしながら、学習館を案内してもらう。

緑の森の中 整然と石垣で区割りされた山内跡などの製鉄遺跡がこんなにきれいに整備されているのを見ると、本当にうれしい。もっと多くの人が訪れるようになれば……と。また、次はクリンソウが咲いた時期に訪れよう。

西播磨へ来る楽しみがひとつ増えました。

「このすぐ近く千種高原にユリ園が開園して、今満開のユリが咲いている。是非 見に行って」と教えてもらって、千種高原のユリに立ち寄ってから、日本での製鉄発祥地伝承の残る岩鍋へ向かいました。



「クリンソウの咲く時に是非 おいで」と管理のおばさんに見送ってもらって 天児屋たら跡を後にする 2013.7.19.

## 2. 今ユリの花満開のちぐさ高原の「ユリ園」に立ち寄る



西河内のY字路から千種川の源流部 鍋ヶ谷を遡る

鍋ヶ谷に入ってすぐ鍋ヶ森大明神の横を通過



ちぐさ高原 ユリ園で 2013.7.19.

天児屋たたら公園管理のおばさんに進められて、ちぐさ高原のユリ園に立ち寄ってきました。

西河内のY字路まで戻って、そこから千種川の源流部 鍋ヶ谷を遡る。鍋ヶ谷に入ってすぐ鍋ヶ森大明神の横を通過 この川沿いの森の奥にもたたら跡があると聞く。15分ほどで山腹に幾本もスキーゲレンデが広がる千種高原に到着。そのゲレンデにびっしり、ユリの花が敷き詰められたように満開のゆりが咲いていました。

ここからすぐ上に見える稜線は岡山/兵庫の県境 駒ノ尾山へ続く稜線のすぐ下でした。





### 3. 宍粟の製鉄地帯の中心部を岩鍋の古代製鉄発祥の地の碑を見て波賀・一宮町から山崎へ 千種川水系の千種から東の揖保川水系へ 山越ルート国道429号線



千種の街まで戻ってきて、「千種」の交差点で国道429号線を東へ。

岩野辺からトンネルをぬけて、揖保川水系の波賀町に抜けて、揖保川沿いの国道29号線を山崎へ戻ってゆく。

かつては岩鍋から峠を越えて波賀町側に越えてゆく厳しい道で、この峠道の山間には数多くのたたら跡がある千種の製鉄地帯で、千種からこの峠にかかるところ岩鍋は古代製鉄発祥の地伝承の碑が建っていました。

そして、厳しい道だったとの思いはあるのですが、特に記憶はない。

その後 別途訪ねたことのあるたたら場野々隅原や小茅野はこの峠道の南側の山中で、この国道429号線へでるのが、街へでる最も有効な手段と聞いていたので、どんな風につながっているのかも気になっていました。

また、そんな峠道国道429号線に「今はトンネルが開通し、道が改良され、非常に便利になった」と聞いた。

あの古代製鉄発祥の地伝承の碑はどうなったろうか??

そして トンネルの新しい道はどんな風に波賀町へ抜けてゆくのか??

興味深々で「千草」の交差点を東に折れて 国道429号線に行く。



千種から東へ入って 岩野辺川沿いの国道429号線を遡って、集落も途切れ、山間のなだらかな坂道を登ってゆくと、北側の荒尾集落への分岐があり、その分岐を超えた道の傍らに見覚えのある「日本古代がありました。以前はもっと急な坂道の途中に碑があつたような気がしましたが…………。  
広くなだらかな坂道に改良された道に移されたのかどうかは良くわかりません。



#### 製鉄神 金屋子神降臨伝承

播磨国宍相(粟)郡の山間の

村岩鍋に天から神が示現。

「わたしは金山彦。天目一箇

神ともいう金屋子神である」と

明かす。そして、人にタタラに

よつて鉄を作ることを教え、

様々な道具を作る技術を人々

に授けた。

そして、「これから西の方へ行き、

鉄を吹き道具を作ることをさらに多く

の人々に教えねばならない」と、

白鷺に乗つて天空高く飛び立つた。

その後、金屋子神は出雲国に飛来し、能義郡比田の森に降り立つたと

言う。この岩鍋は現在の千種 岩

野辺である



「日本古代製鉄発祥 金屋子神降臨の伝承地」の碑



山越の鳥ヶ峠トンネルへと続く坂道



上部から碑の在る平地部を振り返る

碑からさらに上へなだらかな坂道を少し登ったところが鳥ヶ峠トンネルの入り口で、トンネルに入る。全長 1223m と長いので原チャリで走るのには緊張しましたが、とあっけなく揖保川水系の多賀町斎木の集落に抜けました。

かつては峠から斎木側への道は急な下りだったようですが、今は本当にすっと集落へ抜け出ました。

したがって、内海の集落や峠の南側の野々隅原や鷹巣・小茅野の集落へ行くには トンネルの手前で旧道へ行かないと行けませんでした。

### 千種から東へ 岩野辺から山越えで揖保川水系の波賀町斎木へ 国道429 鳥ヶ峠(とりがたわ)道路と鳥ヶ峠トンネル 開通

千種から岩野辺を通り内海を経て鳥ヶ峰を越えて西谷村(現・宍粟市)に至る「岩野邊道」が当道路の由来とされる。昔の本道路は峠を境に岩野辺側は比較的緩やかで、斎木側は急傾斜となっていた。

急峻な谷間から峠越えするルートのため、大型車のすれ違いが困難で、さらに冬季の積雪による通行止めが頻発するなど、交通の障害となっていた。これらを解消するため、トンネルを含む道路の改築事業に着手し、鳥ヶ峠トンネル開通とともに 2008年11月11日にとりがたわ道路全体が供用開始された。

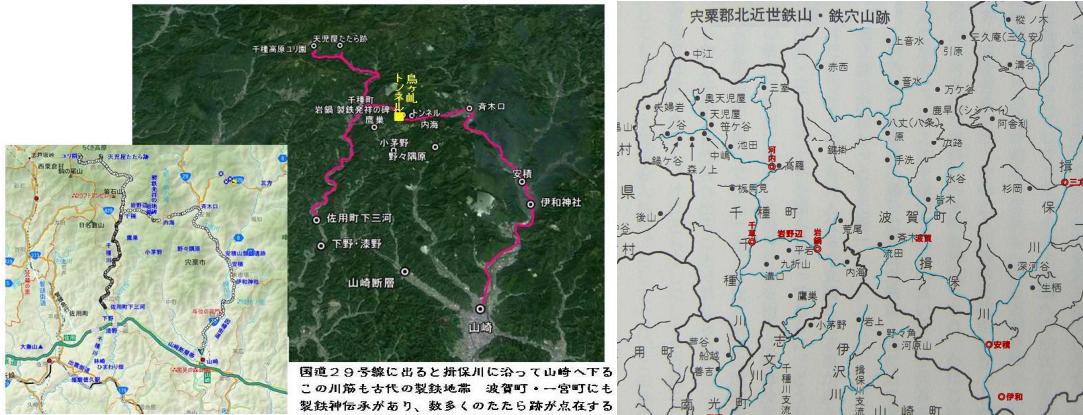


インターネットから採取 鳥ヶ峠トンネル



長さ1222mの鳥ヶ峠トンネル を抜けるとあっけなく波賀町斎木の集落に出る 2013.7.19.

正面南北に連なる山沿いを揖保川が流れ、鳥取と宍粟市をつなぐ国道29号が走っている



斎木口で揖保川の本流に出会って、揖保川沿いの国道 29 号線を一宮町から山崎へ下る。この道も何度も走った道で この揖保川の上流域にも数多くの製鉄遺跡が点在する宍粟の製鉄地帯。しばらく下ると安積の集落に入つて 安積山製鉄遺跡の山裾を通つて伊和神社の前の道の駅へここまで来ると山崎ももうすぐで、ほっとする。千種から約 1.5 時間ほどで山崎へ出て後は山崎断層の中を福崎にて神戸へ。  
久しぶりの千種再訪がうれしい 1 日でした



2013. 7. 19. 夕暮れ近く西日を背に受け神戸への帰路で

BY Mutsu Nakanishi

## 【参考】

- ◎ 鳥羽弘毅氏著「たたらと村 千草鉄とその周辺で」
- ◎ 【和鉄の道・Iron Road】 西播磨の古代製鉄地帯 宍粟・佐用の製鉄関連遺跡 探訪

1. 古代鉄の大王国 播磨国 「千種鉄」「岩鍋」古代製鉄神 金屋子神 降臨伝承の地	2001. 1.
<a href="http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/jst1bb01.pdf">http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/jst1bb01.pdf</a>	
2. 古代製鉄の一大生産地「讚容の里」Walk 西播磨 佐用町 大撫山製鉄遺跡を訪ねて	2003. 11.
<a href="http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf">http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf</a>	
3. 「御方里」周辺 安積山製鉄遺跡探訪 一宮町	2004. 2.
<a href="http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron07.pdf">http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron07.pdf</a>	
4. 産鉄の地 「御方里」の里を訪ねて 一宮町	2004. 6
<a href="http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron10.pdf">http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron10.pdf</a>	
5. たたら製鉄 砂鉄採取の地形 西播磨 砥峰高原 一面ススキが覆いつくす 砥峰高原	2007. 10
<a href="http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron18.pdf">http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron18.pdf</a>	
6. たたらの郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる 奥播磨黒尾山西北山麓 宍粟市山崎町 野々隅原 大国牧場 花の Walk	2009. 6. 21.
<a href="http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/9iron07.pdf">http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/9iron07.pdf</a>	
7 奥播磨 千種川に注ぐ恋文川源流 たたらの郷 宍粟市山崎町小茅野（こがいの）集落を訪ねる	2010. 7. 20.
<a href="http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/10iron08.pdf">http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/10iron08.pdf</a>	
8. 「初期大和王権の成立に大きな役割を演じた西播磨」 西播磨で古墳時代後期末の鍛冶炉跡が出土 有年 兜礼・井田遺跡を訪ねる	2011. 3.
<a href="http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/11iron02.pdf">http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/11iron02.pdf</a>	
9. 千種川流域に咲くひまわり畑と製鉄神「天目一筒神」を祭る「天一神社」を訪ねる 佐用 西播磨佐用町（旧南光町）林崎	2012. 8.
<a href="http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/12iron06.pdf">http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/12iron06.pdf</a>	

